

平成23年度事務事業評価シート(平成22年度分)

予算科目	会計	一般会計	001	款	08	項	02	目	04
事務事業名	道路新設改良事業								
担当部署	建設部道路河川課	0605000	電話	66-4905			内線		

◆事務事業の位置づけ

総合計画の体系	施策の柱	04:生活の基盤が整ったまちづくり
	施策の大綱	01:道路の整備
	施策	02:市道の整備
	施策の内容	01:生活道路の整備
根拠法令等		

◆計画Plan

事業の目的 (何のためにこの事業を行うのか)	幹線道路については、公共施設や都市機能に対する交通利便性の向上を図り、生活道路については、安全性・快適性を確保することを目的とする。
事業の対象 (事業の対象となる人、物など)	大仙市の市道。
事業の内容 (具体的にどのような活動をするのか)	①狭隘道路の整備改良を行う。 ②急カーブなどの危険箇所の改良を行う。 ③大規模な側溝改良・舗装修繕を行う。 ④各総合支所及び観光施設を結ぶ幹線道路の整備を行う。
事業の成果 (どのような成果を期待するのか)	安全で快適な道路整備が図られる。

◆実施Do

項目	名称	単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度
活動結果 (事業の活動量を測る)	① 道路改良延長	m	1,374	3,463	1,438
	② 舗装改良延長	m	1,098	13,748	3,035
	③ 側溝改良延長	m	2,716	6,444	1,005
成果 (事業の成果を測る)	① 道路改良率	%	59	60	60
	② 舗装率	%	51	52	52
	③				
投入コスト	決算額		525,977千円	998,863千円	500,858千円
		一般財源	460,412千円	293,889千円	320,999千円
	人件費		139,152千円	137,417千円	139,074千円
		一般職員の年間従事人数	19.5人	19.5人	19.5人
		一般職員以外の年間従事人数	0.0人	0.0人	0.0人
	総コスト	(決算額+人件費)	665,129千円	1,136,280千円	639,932千円

事業を取り巻く環境	平成22度はきめ細かな事業等により実施している。
-----------	--------------------------

◆評価Check

評価項目		評価	
必要性	①【市民ニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていませんか	A 薄れていない B 薄れている	A
	②【市が実施する必要性】 市が実施主体となってこの事業を行うことは妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	③【計画上の位置づけ】 施策を達成するための手段として妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	評価の理由	生活水準の向上に伴い、生活基盤の整備が必要である	
有効性	①【成果】 活動結果に対し事業の成果は順調に上がっていますか	A 上がっている B 上がっていない	A
	②【活動内容見直しの余地】 事業の成果をさらに向上させるため、事業内容に見直しの余地がありますか	A 余地はない B 余地はある	A
	評価の理由	狹隘道路及び急カーブなどの改良によって、安全性・快適性が確保されており、実績・成果は上がっている	
効率性	①【民間の活用】 指定管理者制度を含む民間委託等により、コスト削減できませんか	A できない B できる C 指定管理導入中	A
	②【他事業との統合・連携】 他の類似事業との整理統合や、関連事業との連携は可能ですか	A できない B 可能である	A
	③【人件費の圧縮】 適正な人員配置(従事職員数、臨時雇用等)により、人件費を削減できますか	A 削減できない B 削減できる	A
	④【コストの縮減】 上記以外の方法で、事業の成果を維持しながらコストの削減、またはコストを増加させずに事業の成果を上げることはできませんか	A できない B できる	A
	評価の理由	市民の要望は多いが、順次計画を立てて実施している。	

◆改善Action

総合評価 (今後の方向性)	現状	評価の理由 今後の改善策等(いつ、何を、どのように)
A 現状のまま継続 B 改善しながら継続 C 拡大 D 縮小 E 廃止 F 終了	現状	市民の多様化する要求・要望に対応していかなければならないが、要求・要望が新設改良から拡幅改良等にシフトしてきている。